令和８年度大谷場中学校だより

おおやば

第7号

令和８年１０月３０日（金）発行

学 校 教 育 目 標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

自 立・共 生・錬 成

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場 2-13-54 TEL882-9962

HP:https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/ MAIL:oyaba-j@saitama-city.ed.jp

秋の深まりから思うこと

校 長 山口 泰由

最近私は、生徒たちの姿に幾度となく心を動かされました。初めて会場で観戦した、さいたま市駅伝大会では、選手たちが次の走者へ襷をつなぐという一心で自らの限界に挑む姿を目の当たりにし、気付けば大きな声援を送り続けていました。また、埼玉会館で開催された合唱祭では、一人ひとりの思いを指揮者がひとつに束ね、その歌声を伴奏者が支えながら、これまでの練習の成果を結実させた最高のハーモニーを創り上げようとする姿に感情が高まり、胸にこみ上げる思いを抑えることができませんでした。

どちらにも共通していたのは、自分のためだけではなく、仲間のため、学級のため、さらには学校のために力を尽くそうとする真摯な姿勢です。全身全霊で取り組むその姿は、多くの人の心を打ち、本校生徒の大きな成長を感じさせるものでした。

さて、朝夕の冷え込みが増し、校庭や街路樹の木々も少しずつ赤や黄色に色づき始め、秋の深まりを感じる季節となりました。ところで、葉はなぜ色づき、そして落ちるのでしょうか。

木は秋になると、日照時間が短くなってきていることを感じ取り、冬が近いと判断し、越冬の準備を始めます。そして、木は葉での活動を縮小し、光合成を行うのに必要な「クロロフィル（葉緑素）」という色素を分解していきます。その際、葉に蓄えられた大切な栄養分は幹や根へと移され、緑色が薄れることで、もともと葉の中にあった別の色素が見えるようになります。つまり、美しい紅葉は「木が栄養を回収している過程でみられる姿」なのです。

さらに冬になると、土が凍り、水を十分に吸い上げることが難しくなります。葉を付けたままでいると、水分が蒸発してしまい、木は生き抜くことができません。そこで、木は葉を落とし、水分やエネルギーの消費を抑えます。葉と枝をつなぐ葉柄には、離層（りそう）と呼ばれる特別な層が形成され、この層ができることで葉と枝の結び付きは弱くなり、最後は風や重さで自然に落葉するそうです。

私たちの生活も同じではないでしょうか。

11 月は、3 年生にとって進路選択が本格化する時期です。校長室で連日行われている面接練習にも、しっかりと事前準備をして臨んでくれています。また、1・2 年生も学習や部活動、委員会活動などで、それぞれの目標に向かって歩みを進めています。

結果や成果ばかりに目が向きがちですが、その土台となるのは日々の準備です。授業に真剣に取り組むこと、家庭学習を積み重ねること、仲間と協力すること、約束や時間を守ること。その一つひとつが未来につながる大切な準備です。

今月下旬には気温もさらに下がり、冷たい風に吹かれた落ち葉が舞い、幹と枝だけとなった木々の姿に寂しさを感じるかもしれません。しかし、その姿は決して終わりではありません。目には見えなくても、次の準備であると思うと、少し違った見え方になるでしょう。木々が来る冬に備えて力を蓄えるように、私たちも未来の自分のために、今できる準備を大切にしたいものです。目の前の努力がすぐに成果として表れないこともあるかもしれません。しかし、地に足をつけ、しっかりと根を張り、春に新しい芽を出す堂々とした木々のように、今の地道な積み重ねが必ず皆さんを大きく成長させます。

2 学期も折り返し地点を過ぎ、後半戦を迎えました。深まりゆく秋の中で、自分の目標をいま一度見つめ直し、一日一日の準備を重ねながら充実した学校生活を送ってほしいと思います。